泉式 全音速記

全音速記術發者
乙部泉三郎 著

泉式 全音速記 目次

1、全音速記……2
2、練習の要具……2
3、速記の練習……2
A、単字よりも単語を……2
B、反読と反訳……3
C、毎日の練習……3
4、速記と表音……3
5、カ行……4
6、ガ行……4
7、サ行・ザ行……4
8、タ行……5
9、ダ行……6
10、ナ行……6
11、促音の書き方……7
12、鼻音……7
13、畳字……7
14、ア行・ワ……8
15、ハ行……9
16、パ行……9
17、バ行・ヤ行……10
18、マ行……10
19、ラ行……11
20、長音字のある単語例……12
21、タイ・ダイ……14
22、ジュウ・ジュン・ジュ……14
23、カイ・コイ・スイ・ツイ等……15
24、ナニ・ココ・カコ・ツツ……15
25、小円の省略法……15
26、ル点簡記法……16
27、キ字簡記法……16
28、ドンナ・コンナ・ソンナ……16
29、コトの記法……17
30、スルとシタ……17
31、ナラとネバ……17
32、数字のかきかた……17
33、助詞の類……18
34、助動詞……19
35、ナオアル法……19
36、ア・ウ・タイ・シイのであります……21
37、受身と敬語……21
38、テイル法……22
39、略字……22
40、大字バ法……23
41、略字の活用……23
42、記号……25
43、文例……26

添付・基本文字一覧表

1. 全音速記

速記術は人の言葉をそのままに快速に書き取る技術であります。この全音速記は式の名で言えば泉式といいます。泉の流れるが如く、すらすらと書け、すらすらと読めることを理想としている速記であります。

泉式は1940年に発表されました。基本文字に採用した画線は、ひらがなを分解し、その構成している線を用い、表音は漢字とローマ字とを参考といたしました。

全音速記の開発目標は

1. 書きやすい速記
2. 読みやすい速記
3. 美しい速記

この三つでありました。

書きやすい速記のためには、誰でも自然に書ける線を用いなければなりません。この速記の文字は、日本字を書くような気持ちで書ける文字であります。だから、速記のための特別の運筆練習をする必要はないのであります。鉛筆の持ちかたも、普通の日本字を書くのと、全く同じで、速記を書くための特別の持ちかたをする必要はありません。鉛筆は固く持たないで、普通に持って、速記の練習をしてください。

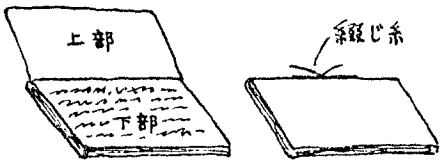
速記文字を読みやすくするためには、速記は書いた通りに読めばよい速記であることであります。この速記は清音字・濁音字・長音字を活用するので、反読の練習は書いてある通りに正確に読めばよいのであります。

速記が上達してくると、自然に美しい字並びの速記が書けるようになります。速記書道も全音速記の目標の一つであります。美しい速記、芸術的な書風の速記は、日常生活に速記を取り入れるためには、だれにも必要なのであります。この全音速記は、このような性格を持っております。

この全音速記は、発表以来ここに30年、時勢の進展と共に改良を重ね、見ちがえるほどの発達をとげました。泉式を習得して専門速記者となった方々、自家用として、速記を活用している人々もたくさんおります。小中学生でさえ、この速記を習っております。

2. 練習の要具 …… 紙と鉛筆

紙は白紙なら何でも間に合います。練習用には、普通のザラ紙を20枚ほど二つ折りにして、その折り目を綴じて使います。はじめは下部だけを使い、使い終ったら下部を上部にし、上部を下部にして使うのが普通であります。



鉛筆は3B, 4B, 5Bなどのような、芯のやわらかなものを用います。芯は少し長めにけずり、芯さきは鋭くしないでも使えます。速記の字は細くても太くても同じですから、太い芯のまま使えば、長時間の役にたちます。練習の初めごろは、鉛筆に力がはいりすぎるようですから、なるべく軽く使うように習ってください。

3. 速記の練習

A. 単字よりも単語を

速記文字は一字一字を単独に覚えるよりも、単語に綴ったものを覚えるほうが能率が上

がるようであります。いろいろの単語の書き方を覚えれば、単字も同時に覚えられることになります。

速記の字は書きかたの筆順に気をつけてください。一本の ／ 線でも、下から上へ書きあげる ↗ 線と、上から下方へかきおろす ↙ 線とがあって、この二つの線を区別しております。この二つの線は似ていますが、実はちがう線なのであります。上り線と下り線で角度がちがうのであります。字を書きはじめるところを起筆点といいます。本書では、この起筆点を示すために、矢印 ↗ ↙ を用いてありますから、よくご注意ください。

テープコーダーを速記練習に利用するのも上達の方法であります。習い初めの人が単語練習をするときには、同じ単語を三回連続して吹きこみ、その聞き書きは三回の声に一回書ければよいとします。一例をあげれば、「かし・がじ・きし・きじ……」の単語を吹きこむとき、「かし・かし・かし・がじ・がじ・がじ・きし・きし・きし・きじ・きじ・きじ……」と三回ずつ吹きこみます。練習の初め頃は思うように書けないので、三回聞く間に一回書ければよく、次第にらくに書けるようになって、習熟してくると、三回きいて三回正確にかけるようになります。このようにして上達してくれば、二回ずつ吹きこむとか、一回吹きこんで練習することもできるようになります。

速記の練習中、特に注意しなくてはならないことは、字の大小や、字の長短、線の方向や形、字尾を留める字と、字尾を流す字との区別、また、円の大小やその形状などを正確に書くように練習することであります。正確な文字の練習は最後まで必要であります。

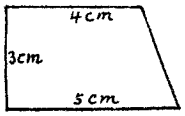
B. 反読と反訳（反文）

速記を読むことを反読といいます。読むだけでなく、日本字に書き直すことを反訳または反文といっております。反読は初学の人はいやがりますが、速記上達のためには非常に必要でありますから、書いた速記は必ず反読してください。速記の検定試験を受ける人にとっては、反訳は特に大切であります。

C. 毎日の練習

毎日練習しないと上達がおくれます。一日に長時間練習して、二三日休むような練習のしかたよりも、短時間であってもよいから、毎日休むことなく練習を続けることが大事であります。

速記の習いはじめ、単語を練習するころは、右図のようなカードを作って、表に速記を、裏には日本字を書いて練習するとよいと思います。

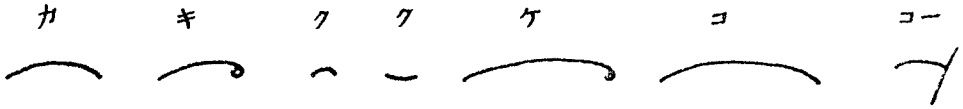


なお、速記練習時間記録表を作って、毎日練習した時間を記録しておくことも大切であります。練習時間合計100時間を越えるころには、速記もよほど上達しておりましょうし、速記に対する興味も津々とわきでていることと思います。

4. 速記と表音

この速記では何でも発音通りに書くことを本則とします。たとえば（母は東京へ行く）は（母わ東京え行く）と書きます。また、放火・防火・邦画・忘我の字は速記の字形がみなちがっておりますから、その通りに書けますし、その通りに読むのであります。

5. カ行



この速記の文字の大きさは、大体、三つに分けられる。大字・中字・小字の三種である。普通には大字の大きさは約25ミリ、中字は約12ミリ、小字は約4ミリと見当をつけておけばよい。カ行では、カは中字・コは大字。カに小円をつけるとキになり、コに小円をつけるとケとなる。クは二字あって、どれを使ってもよい、クは小字。

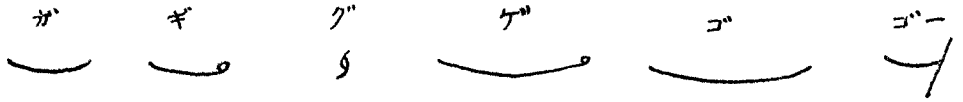
(単語例) カキ キク カク キカ

クキ カケ キケ キコ

クケ コク コケ

火口 校歌 広告

6. ガ行

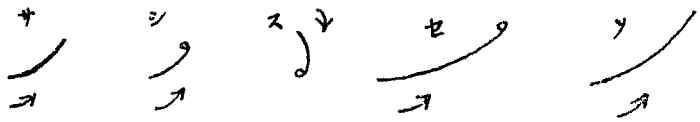


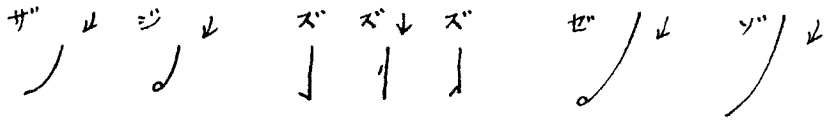
(単語例) ガギ ギグ 合議

豪華 カガ カグ グキ

カゲ ガク ゲキ

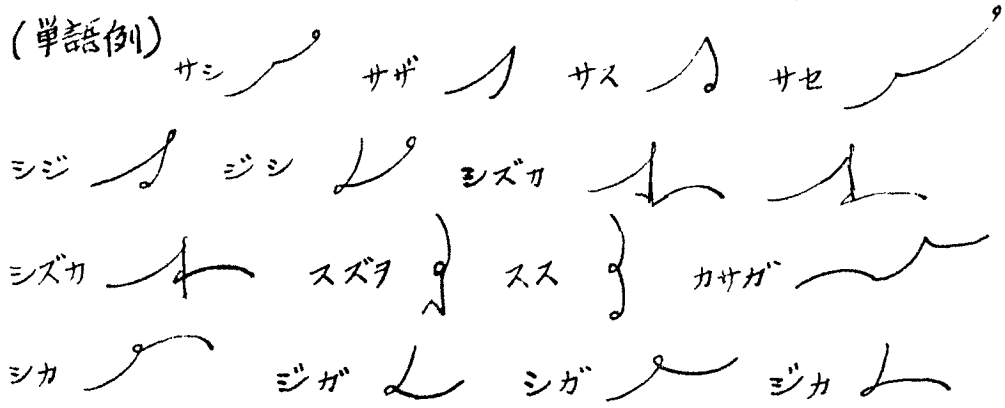
7. サ行・ザ行



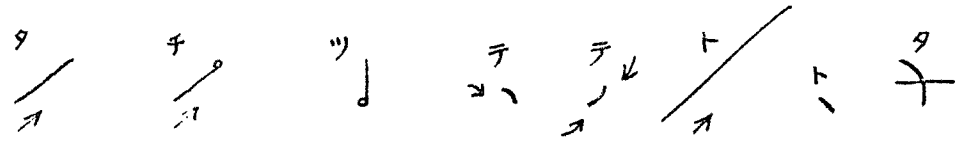


サ行・ザ行は必ず矢印の方向にかかねばならぬ。
ズは三字ある、どれも中央の線からかかねばならぬ。

(単語例)

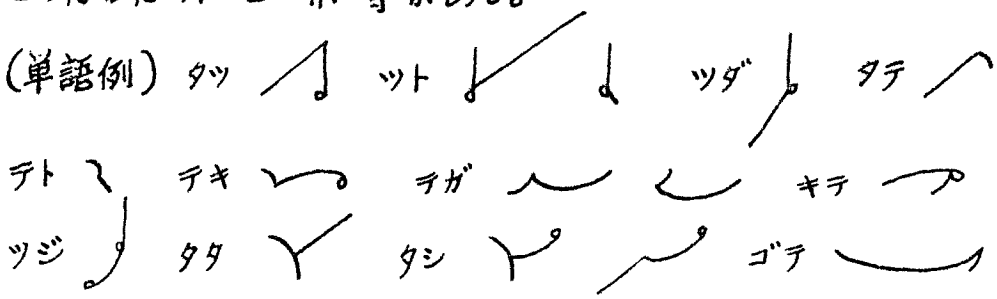


8. 夕行



テは小字で二つある。トは大字と小字と二つある。ツの小円は右側につけても左側につけてもよい。タ 夂 は半書字といってタカ タケ の如く、次の字が続くときは 夂 の横線を省略してもよい。つまり半分だけ書いてもわかる字である。半書字はこのほかにハ・ヒ・ホ等がある。

(単語例)



9. ダ行

中央たて線の右はテ、左はデである。よって（めて・ゆんで）とおぼえるとよい。めては馬手（右手）、ゆんでは弓手（左手）である。

ダ　デ　デ　ド　ドー

（単語例）タダ　カタ　カダ　デ　テ

デキ　テキ　スデ　シド

ダク　タク　タデ　ダデ　ドク　トク

ダシデ　タシデ　タシテ　デテ　テデ

10. ナ行

ナ　ニ　ヌ　ネ　ノ　ノ　ノ

ニとネとの字尾の小円は上につけても下につけてもよい。

（単語例）ナノ　ニノ　ネノ　野の

ニカ　ニガ　キヌ　ヌカ

カネ　信濃ノ　カノ　キノ

ノキノ　来タノダ　ソノ

助詞ニは　を使う

（使用例）菓子ニ　時ニ

11. 促音の書き方

そく音とは カット、シッカ、カッタ 等の如く、つまる音のことである。この速記では 次の単語例の如く、文字を交叉して表わすか、字と字との間に | 線をいれて表わす。

(単語例) カッカ　カット　シッカ

カッタ　トッキ　トッサ　トッタ

ガッカ　学校ガ　サッキ　ツッタ

鳴ッタ　知ッテ　ネット　ハッタ

12. 鼻音

鼻音とは カン、キン、サン、シン、トン 等の語に出てくる ン の音のことである。この速記では、字尾をとめないで、字尾の力をぬいて表わす。字尾で鉛筆をとめないで流すのである。

一例を示せば、タダは　となるが、タンダは　となる。

シガ　シンガ　カカ　カンカ

キカ　キンカ

ジンカ　デカ　デンカ　テンカ

13. 畳字

チチ、ネネ、カタカタ、サクサク、カチカチ 等のように、同じ音をくりかえす時には 〻 または 〃 を用いる。

（単語例）チチ　タタ　ネネト

クネクネト　カタカタ　サクサクト

14. ア行・ワ

ア　イ　イ　ウ　ウ　エ　エ　オ　オ　エル　ワ　ワ

アは小字よりも大形にかき、どこから起筆してもよい。エはひらがなの元の初めの二画の如く必ず下方より起筆する。イは極小円にして使う場合が時々ある。

（単語例）秋デ　伊賀デ　息デ

タイ　衣服　クイテ　シイ　セイ

井田　飯田　痛イト　偉大ナ　アア

池デ　愛ノ　アイサツ　牛デ

歌デ　宇多デ　声デ　消エテ

キエルト　ニエルガ　駅デ

絵師　江戸　エス　エツ　栄転

映画デ　エイチデ　詠歌　栄光

永遠ノ　オカ　川ワ　オダ

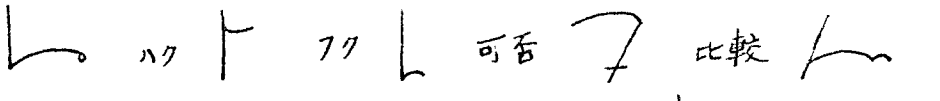
15. ハ行

ハ　ヒ　フ　ヘ　ホ　ホー　ホン

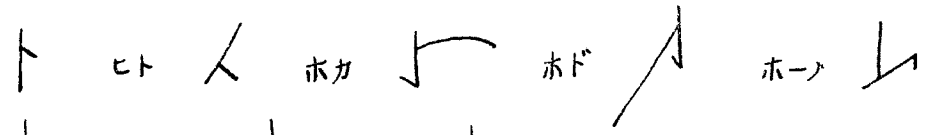
ハ・ヒ・ヘ・ホ・ホー・ホンは半書字である。字の半分がいて間に合う字である。ハ行の字は必ず、たての線の上部から起筆する。横線はハ・ホは中央より上部に、ヒ・ヘは中央より下部にある。

（単語例）旗ガ　蜂ノ　ハダカ　ハキ

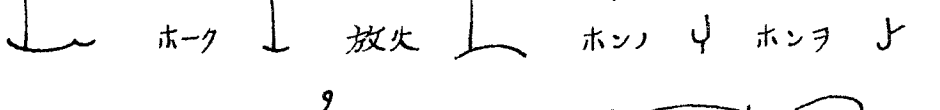
フキ　ハク　フク　可否　比較



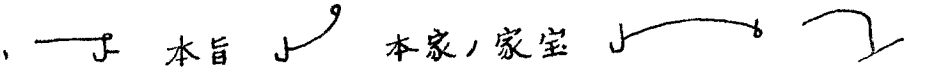
ハト　ヒト　ホカ　ホド　ホーノ



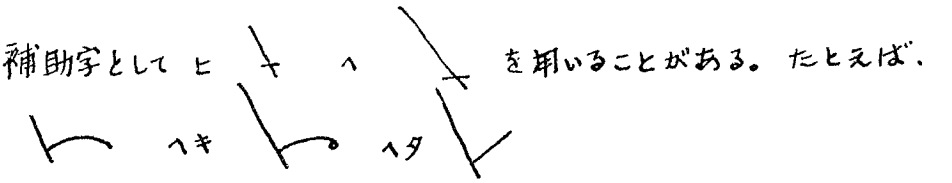
方角　ホーク　放火　ホンノ　ホンヲ



日本ハ　本旨　本家ノ家宝



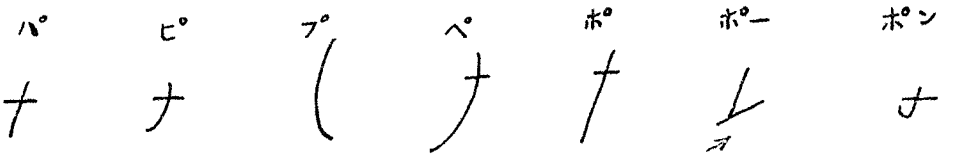
（註）補助字としてヒ　ヘを用いることがある。たとえば、



皮下　ヘキ　ヘタ

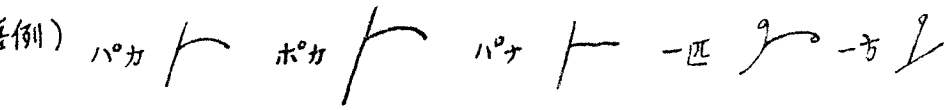
16. パ行

パ　ピ　プ　ペ　ポ　ポー　ポン



パ行はハ行のように半書字である、単語例を見て理解してください。

（単語例）パカ　ポカ　パナ　一匹　一方



カッパ　カッパガ　カップ　ピアノ

ペキン　ペンギン　ナッパヲ　達筆

カッパ・カップ・ナッパ等の如く促音のある単語はカパ・カプ・ナパ等と書いてもよい。

(単語例) イポーッガ　憲法ガ　漢方医

17. バ行・ヤ行

バ　ビ　ブ　ベ　ボ　ボー　ヤ　ユ　ヨ　ヨー

(単語例) バク　ビク　ブシ　カビ　カブ

ノベテ　ヤケデ　雪　ヨキ

ボヤ　ヤボ　坊ヤ　防備　希望

用意　(注) ヨは小字として、ヨイ　ヨク　のようにも用いることもある。

18. マ行

マ　ミ　ム　ム　メ　モ　(助詞)モ

ll は右より起筆、　は左端または右端より起筆。　は字尾をとめない。

マキデ　ミキデ　カメヲ　カミヲ

虫デ　ムカデ　ムチデ　ムス

君モ　雲モ　向キモ

19. ラ行

ラ　リ　リ　ル　ル　レ　ロ　ロー

（単語例）ナラ　キリ　チリ　オラ

サラリ　トロ　ヲク　アラ　イラ

村田　エラブ　ウラ　ムリ　太郎ハ

次郎ガ　四郎カ　四郎ハ　老人

老臣　朗々ト　（註）ル点　・は単語の頭には使わない。ll は左の線から起筆する。右線から起筆するとムとなる。

カル　ルカ　ルイ　ラ　ロ　マル

テル　デル　トル　ヽ　古イ　ズルイ

ルナ　ムナ　サル　サム　デルト　クルト

（註）レは間消字にもなる。間消字とは、字と字との間に、その姿を消してしまう字のことである。例としてはカレテ クレテ クレデ ナレル 等、次の単語例を見よ。

（単語例）ダレ ダレダ ジレル ダレカ

歴史 ダレガ カレラハ カレダ

キレジ テレビ カレル キレタ

サレル サレテ ソレト コレト

ラレテ サレ ラレ サレタ

ラレタ コレガ ソレラハ ラレル

（註）はとの合字。零度 令名

例規 例刻

20. 長音字のある単語例

長音字のない場合には、字のそばに点を打って長音とする。

（単語例）高等 高層

高農ト 構造 公報ガ

工房ト 紅毛 高度 小路

好打 公私 公用 高楼ガ

豪華　合同デ　合法的　草稿ヲ

想像　相当　斉藤　双方ガ　僧坊ト

早老ノ　増加　私蔵　増額

高校ヲ　ゴーゴート　早々ト　トートート

堂々ト　ノーノー　方法ガ　ボーボート

モーモー　洋々ト　朗々ト　盛枝　トーロー

逃亡　東方ト　ポーポート　望楼ガ　房総

暴動ガ　冒頭ノ　養老ノ　サーサ　カーキ

便宜字として　スター　タービン　ダース　ダーク

オトート

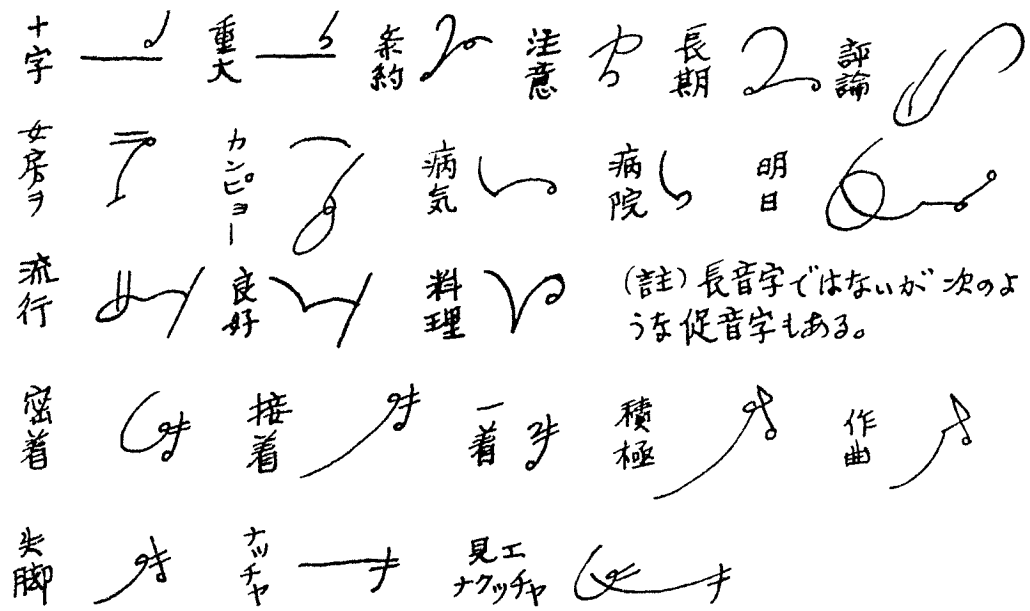
このほか次のような長音字の使い方がある。

数詞ヲ　数学　ズーット　ズーント　通知ヲ

通行ガ　サンデー　新浮　安寧　風致

ブーム　急ナ　教師　牛乳　崇教　龍宮

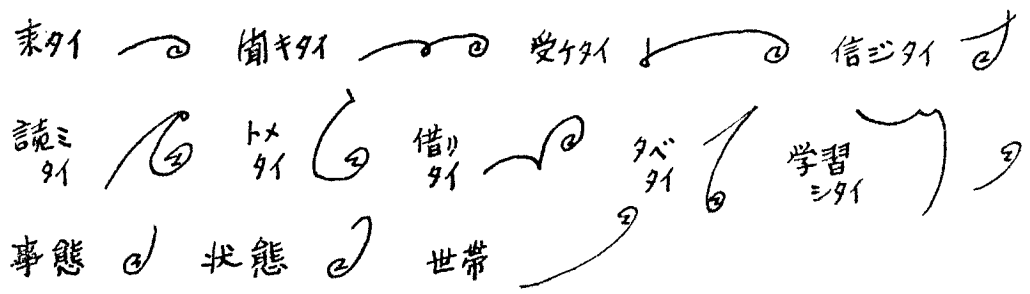
商業　農業ヤ　工業ヤ　横線ハ助線



21. タイ・ダイ　点のダイは語の初めだけに使う

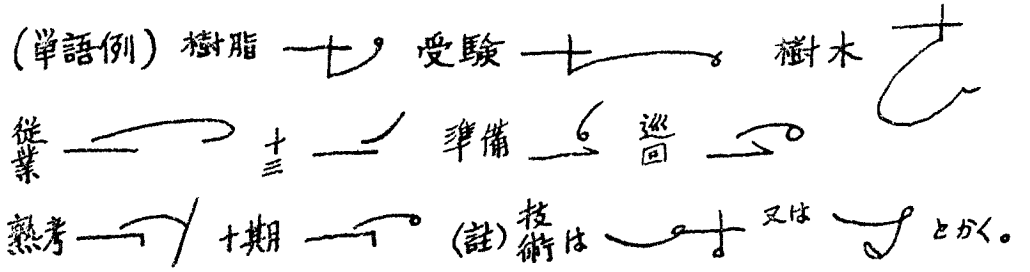
退学　大学　対象　大小

(註) 次例のように小円のつく字に限りタイの特別のかきかたがある。



22. ジュウ・ジュン・ジュ　ジュは全書字。他は半書字。

(単語例) 樹脂　受験　樹木



23. カイ・コイ・スイ・ツイ 等

（単語例）キカイ　イコイ　ガイカ

サイゴ　イソイデ　カザイ　ハイク　カンパイ

マイク　バイク　カモイ　必素　クロイ

水害ハ　水泳ノ　ツイカ　追突　随行ノ　スキーノ

定価ノ　停止　サンデー　等々

24. ナニ・ココ・カコ・ツツ 等

よく使われる字である。

（単語例）ナニ　サシ　タチ　ナニカ

サシキ　君タチ　ココ　ココニ

ココガ　カコ　過去ノ　過去モ

カツ　ガツ　ハツカ　フツカ　必要

シャツガ　シュツ　カブツ　クベツ　見ツツ

キエント　ニホンハ　ニッポンハ　永遠ノ

25. 小円の省略法

シン　ジン　ニン　ビン　ブン　のように小円のつく字で ン を伴う字は、次の例のように小円を省くことができる。

（例）心外ノ　神事ノ　金貨ハ　人家

郵便ガ　文化ノ　人気ガ　帰任ノ

飯ノ　ニンニク　念ニハ　銀貨

銀行ハ

26. ル点簡記法

知ル・切ル等の如く小円のある字にル音の続くものは、小円を省き、字尾の下部に点を打ってもよい。

（使用例）知ル　散ル　切ル　チギル

ミセル　ニゲル　ミル　トメル　ヤル

シルト　ミルト　（注）ビル　ベル　はこのほうがよい。

27. キ字簡記法

キタ　キミ　キネ　のキの字の小円の一部分だけを残したものとみてもよい。しかし、強いて使用に及ばず。

（使用例）キタ　キミ　キネ　キシ

キバ　キナ　キジ　キソク

これを逆にかいて、逆によむこともできる。

（例）タキ　ミキ　ネキ　シキ　バキ

ナキ　ジキ　（註）促音は次のようにかくこともできる。

タッキ　ヤッキ　シッキ　速記　業器

28. ドンナ・コンナ・ソンナ

ナの筆順は

ドンナ　コンナ　ソンナ　と小字にかくこともできる。

29. コト の記法

見タコトハ　来タコトモ　ミゴトナ　マコトニ

仕事ヲ　のように、字の下部を コト と読む。コトの略字は　があって、コトバ　コトニ　などとかく。また、段落標 × を字の下部に記せば コト と読む。次の例を見よ

(例) 見タコト　本ヲ読ムコト　来ルコト

30. スル と シタ

スル の大字は スレバ

(単語例) 帰宅スル　キタクスレバ　愛スル

スルトイウ　スルトイウノデアリマス　移転スル の　イテンスルトイウノデアリマス

字の下部に タをかいて シタと読む　帰宅シタ　ドウシタ

31. ナラ と ネバ

ナラ　ネバ

(例) 池ナラ　今ナラ　今ナラバ

朝ナラバ　ウタネバ　見セネバ

ネバナラヌ　ネバナラナイ　ネバナリマセン　ネバナルマイ

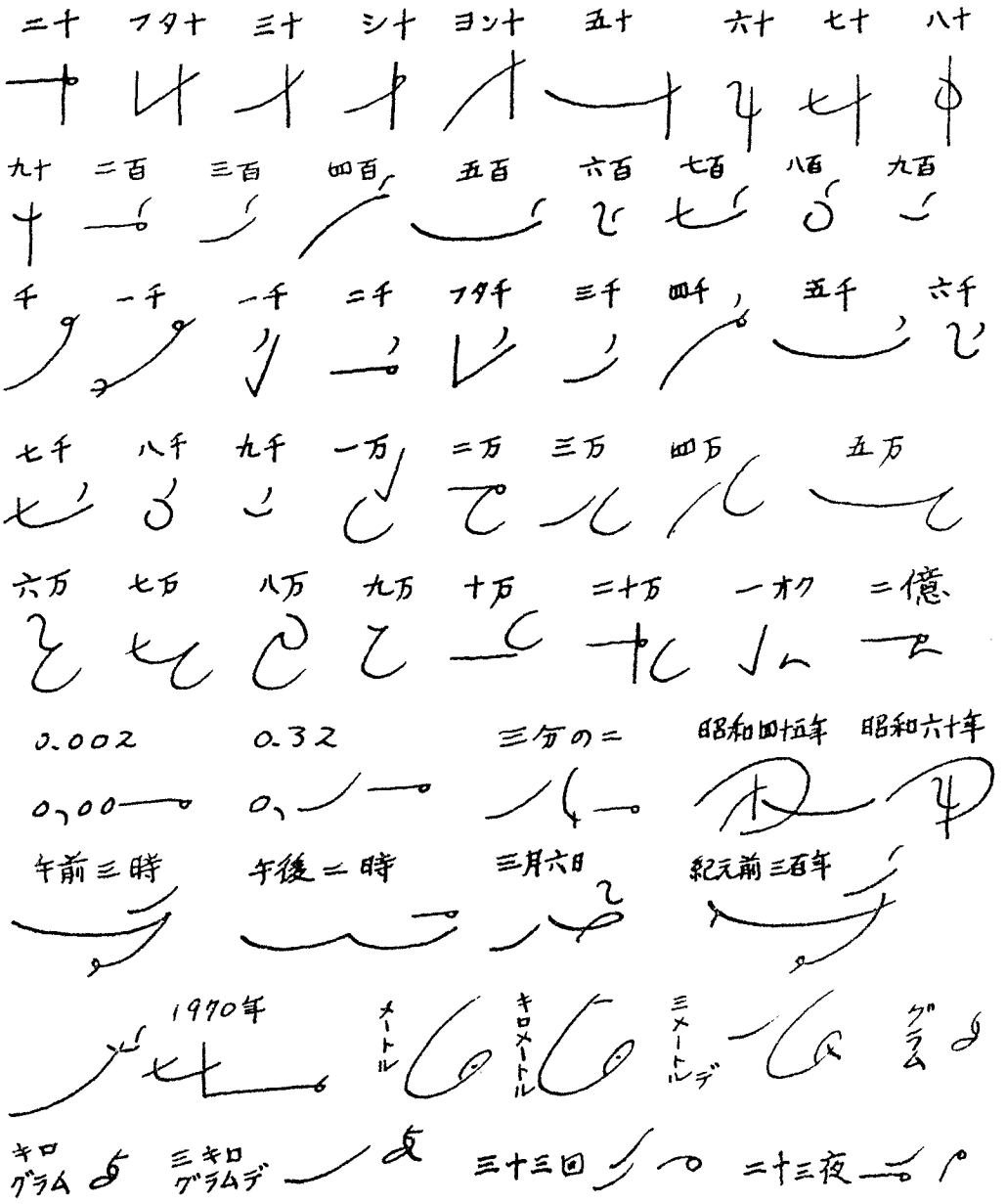
ネバナリマスマイ　ナラヌ　ナラナイ　ナリマセン

コマラナイ　シラナイ　ワカラナイ

32. 数字のかきかた

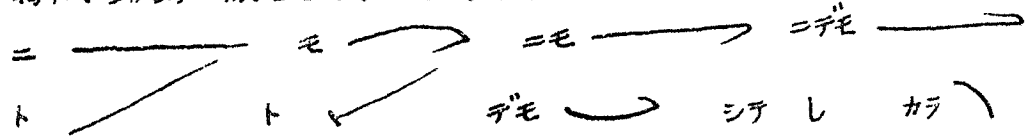
イチ・ヒト　ニ　フタ　サン　シ　ヨン　ゴ　ロク　シチ・ナナ

ハチ　ク・キュウ　ジュウ　ヒヤク　セン　マン　オク　ケイ



33. 助詞の類

速記の助詞は基本文字で書けばよいのであるが、下記のものは、特に、助詞の類として、一括して並べておく。



ヨリ　ヨレバ　デス　ノデ　ノデス　ノデハ

（使用例）山ニ　山ト

馬ニモ　馬ニデモ　川デモ

雨デモ　山カラ　見タカラ　反対シテ

コウシテ　ハシヨリ　川ヨリ　花デス　来タノデ

見タノデス　来タノデハ

34. 助動詞

マス　マセン　マスト　マシテ　マショウ　マスマイ　マシタ　マスノデ　マシタノデ　マスル　マスルト

マスルカラ　マスカラ　マセヌ　マスケレドモ　マシタケレドモ　マスレバ　ノデアリマス　マセンデシタ

マセンデシテ　マセンデショウ　マセンデシタガ　デショウ　マスガ

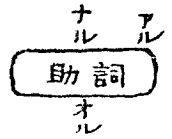
（使用例）見マス　見マセン　見マスト　見マシテ　見マショウ

見マスマイ　見マスル　見マセンデシタ　見タデショウ

35. ナオアル法

石になる、虫がおる、花であるの句の中のなる・おる・あるの三つのかきかたをナオアル法と称する。ナオアルは多くの場合、ガ・ニ・ト・モ・

ハ・テ・シテ・デ・ノデ 等の助詞に接続して用いられる。
助詞の中央上が ナル、中央下が オル、右肩が アル の位置となる。次の使用例によって理解してもらいたい。



(使用例)

石ニナラヌ　石ニナラネバ　石デアラネバ　石デアロウ　石デショウ　石デアルデショウ

36. ア・ウ・タイ・シイ のであります

来た kitá 見た mitá 食う kuú 来る kurú 見える mierú、タイ・シイ等に続く助動詞は「ノデアリマス・ノデアリマシテ……」とノデが続く。

（使用例）来タノデアリマス　ミタノデアリマス　ミタノデアリマシテ

朝ナノデアリマス　幸ナノデアリマス　クウノデアリマス　クルノデアリマス　ツクノデアリマス

オスノデアリマス　タツノデアリマス　ヤムノデアリマス　ミルノデアリマス　知ルノデアリマス

知ルノデアル　知ルノデアリ　知ルノデアッタ　押スノデアル　オスノデアッタ

キタノデアル　キタノデアルノデアリマス　キタノデアッタ　キタノデアッタノデアリマス

ミエルノデアル　ミエルノデアリマス　ミエルノデアッタ　ガアルノデアリマス

ガアッタノデアリマス　見タイノデアリマス　聞キタイノデアリマス　メデタイノデアリマス

信ジタイノデアリマス　美シイノデアリマス　ホシイノデアリマス

37. 受身と敬語　ラレ・サレ・セラレ

（使用例）コラレ　メサレ　メサレル　メサレテ

召サレタ　メサレマス　メサレテオリマス　キラレ　ミラレ

ミラレテ　ミラレル　ミラレルノデアリマス　ミラレマス　ミラレヌ

送ラレヌ　オクラレル　ミセラレル　ミセラレマス

感ジラレ　信ゼラレル　ミセラレルノデアリマス　ミセラレヌ

38. テイル法　テイル・テイタ・テイッタ

見テイル　翼ッテイル　知ッテイル　マッテイル　ネテイル　イッテイル

ト言ッテイルノデアリマス　カッテイタ　カッテイッタ　ミテイタ　ミテイッタ

ノボッテイル　ノボッテイタ　ノボッテイッタ　ニナッテイル　ニナッテイタ

ニナッテイルノデアリマス　ニナッテイタノデアリマス　ニナッテイルノデゴザイマス

39. 略字　略字はなるべく少ないほうがよい。

略字を多く使えば快速にかけるはずであるが、多すぎると、これを覚えるために非常な努力をしなければならないし、覚えただけで即座に活用できないようでは、かえって速力をにぶらせるから、用心しなければならない。ここに示した略字でも初学の人には多すぎるようであるから、初めのうちは、この略字の中から覚えやすいものだけを拾いだして使えばよいと思う。

アル		ココ		……トイウ		ミナサン	
イル		ゴザイ		トコロ		ミナサマ	
オル		コト		トコロ		申シ上ゲ	
思ウ		シカシ		ナイ		モノ	
カコ		…テシマイ		……ナク		……ヨウニ	
必ズ		スナワチ		……ナク		……レバ	
必ズシモ		スベテ		……バカリ		私	
考エ		……ダケ		人ガ		私タチ	
ケレドモ		デキ		人々ガ		私ドモ	

（註）ⓓは文字の代用記号である

40. 大字バ法

略字を大きく書いて、語尾を……バとよませる。

(例) トイウ　トイエバ　思ウ　思エバ　考エ

考エレバ　デキ　デキレバ　ニヨリ　ニヨレバ

オル　オレバ　イル　イレバ　ニナリマスレバ

ガアリマスレバ　ナケレバ　申シ上ゲレバ　テシマエバ

41. 略字の活用

アラレル　イラレル　オラレル　オレバ　イレバ　オラレマス　オラレテ

イラレタ　ナラレル　考エ　考エマス　考エテ

考エテオリマス　考エテイル　考エテイタ　考エテイルノデアリマス

考エタ

考エルヨウナ　考エテイルヨウナ　考エラレテ　考エラレテイル

考エレバ　考エレバ考エルホド　考エレバ考エルダケ

考エル　考エルノデアリマス　考エラレルノデアリマス　考エラレマス

考エネバナラヌ　考エネバナラナイ

考エネバナリマセン　思ウ　思ウ・ト思ウ

思イ　思イマス　思イマセン　思イマシテ　思ウノデアリマス

思ワヌ　思ワナイ　思エバ　思ワレ　思ワレル

思ワレタ　思ワレテ　思ッテ　思ッテイル

思ワレテイル　思ッテオル　思ッテイタ

思ッテオッタ　思ウノデアリマス　思ワレマス　思ワレルノデアリマス

思ウヨウナ　思ウモノデアリマス　思ウノデゴザイマス　…ダト思イマス

トイウ　トイウ　トイウノデアリマス　トイッタ　トイッタヨウナ　トイウヨウナ

トイエバ　トイエバイウホド　トイイ　トイイマス　トイワレマス

トイワレルノデアリマス　トイッテイル　トイッテイタ　トイッテオル

デキ　デキル　デキマス　デキナイ　デキルトイウ　デキタ

デキヌ　デキナクナッテシマッタ

ゴザイ　ゴザイマス　ゴザイマシテ

テシマイ　見テシマイ　見テシマウ　ミテシマッタ　ミテシマイマス

ミテシマウノデアリマス　テシマエバ　テシマウノデアル　テシマウノデアッタ

テシマッタノデアリマス　テシマッタノデアル　ヤンデシマイ　朝ニナッテシマイ

ミエナクナッテシマッタ

ナク　ミエナク　来ナク

ミエナクテハ　ミエナクテハナラナイ

トラナクテハナリマセン　トラナクテハナラヌ

ミエナクナラナイ　ミエナクナッテ　ミエナクナリマス

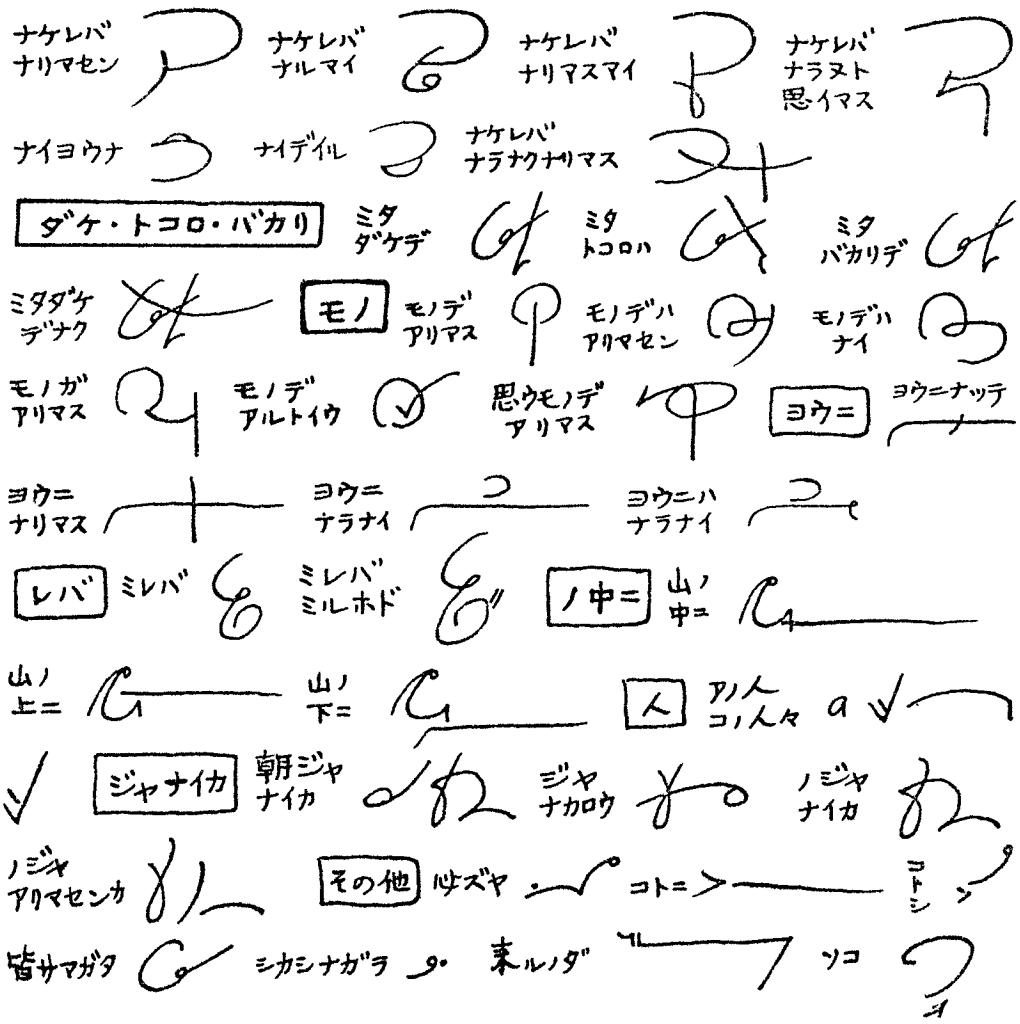
申シ上ゲ　申シ上ゲマス　申シ上ゲタ　申シ上ゲタイ　申シ上ゲテ

申シ上ゲルマデモナク

ナイ　ナイノデアリマス　ナイトイウ　ナイトイッタ

ナイトイッタヨウナ　ナイト思ウ　思ワナイ　ナカッタ　ナカッタノデアリマス

ナカッタトイウ　ナケレバナラヌ　ナケレバナラヌトイウ　ナケレバナラナイ

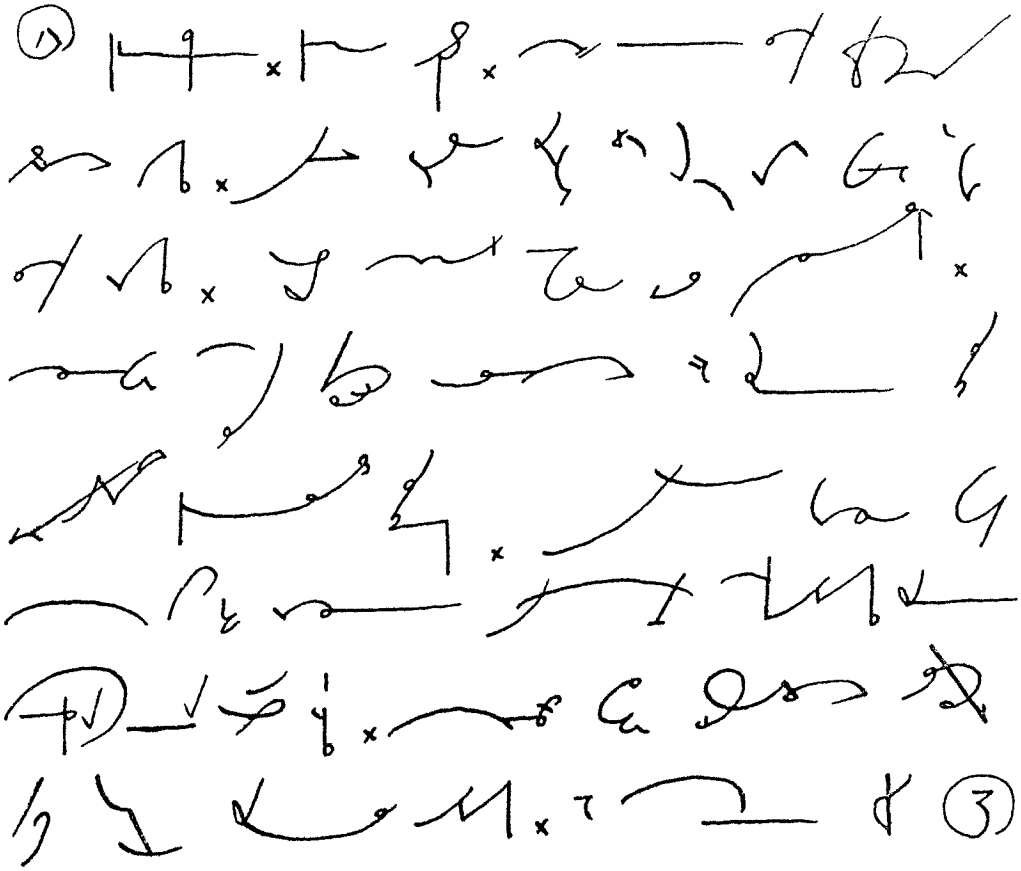


42. 記号

速記の書き初めには ⑴ を、速記の終りには ⑶ の印をつけておくと速記の初めと終りとが明瞭になってよいから、練習のとき、これを実行するようにおすすめする。

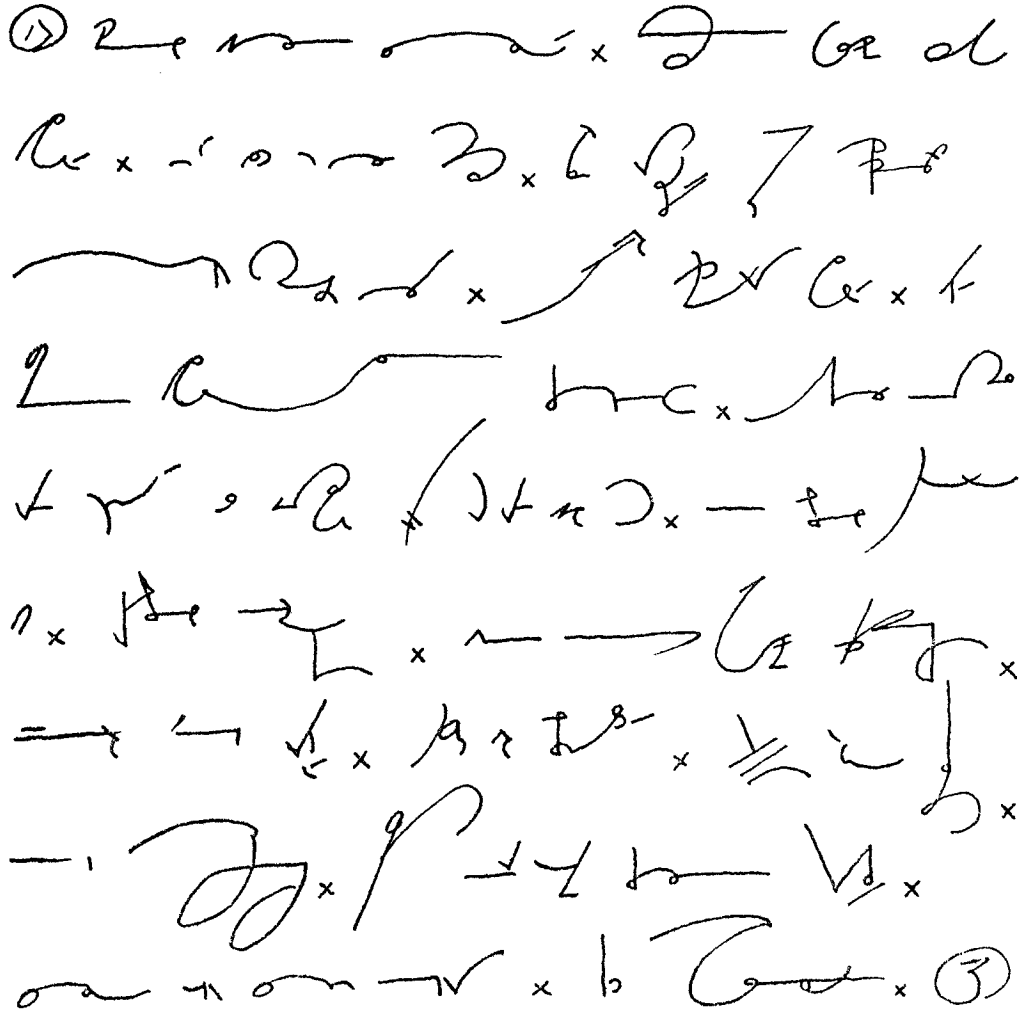
日本文では句点として小丸。を用いるが、速記では X を用いる。カッコは ⌊ ⌋ を使う。

43. 文例

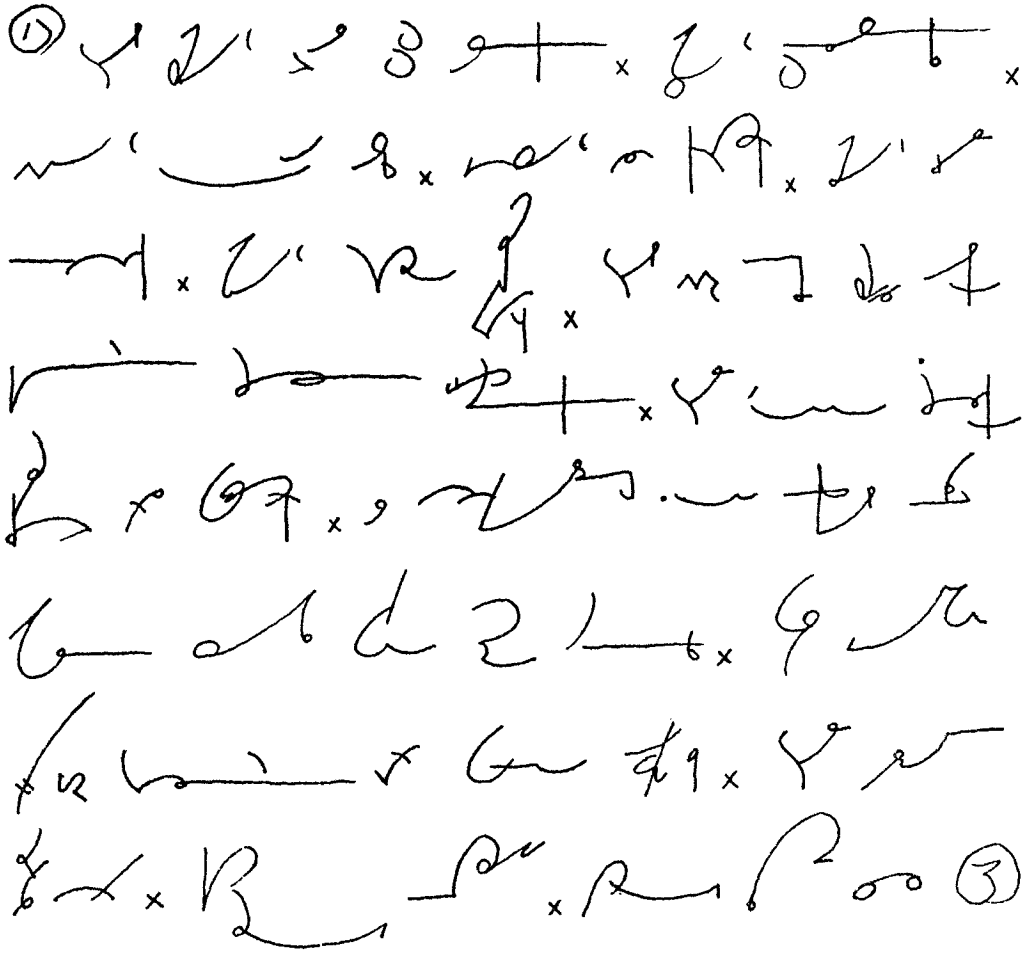


反訳文。①は速記の書き初めのしるし。

春になったのであります。花が咲いているのであります。公園に行こうじゃないかと、又も言うのでありました。それなら、私が自動車を運転するからというと、みんなは電車で行こうというのでありました。技術革新の波がおしよせております。きのうまで完全だと思っていた技能もきょうはすでに時代遅れとなってしまうというような、はげしい時代なのであります。戦後、社会がまだ混乱しておる時に新憲法は公布されたのでありました。実に昭和21年11月3日のことでありました。これによって、今まで夢想さえもしなかったところの男女平等が実現されたのであります。私はこのことについて ③り



ここには大きな池がある。あそこに見えるのは浅間山である。こんなよい天気はないと思った。テレビはトランジスターなどの開発によって小型のものができてきた。センターとは中心という意味である。陽のある間に山小屋に着かねばならない。速記を習う人はたくさんある、しかし終りまで勉強する人は多くはない。南極にはペンギンがいる。北極にはなにがおりますか。おとなにも、おもちゃは必要なのでありましょうか。女人とは女の人のことである。ピアノの音は美しいのである。どうしたことか電話が通じない。何の故障なのでしょう。アポロ11号は月に到達した。秋がくると赤くなるという。古い米になっていた。(了)



私のおじいさんは、ことし88才になります。おばあさんは82才になりました。おとうさんは53才です。おかあさんはよく働いております。おじさんのうちは農家であります。おばさんは料理が上手だということであります。私の弟は夏は水泳をしますが冬になるとスキーに夢中になります。私は音楽が大好きでありますが、スポーツもやってみたいと思っております。しかし高校なので大学入試の準備のために遊ぶひまがないのが残念です。毎晩遅くまで勉強していると、病気になるからといって、みんなが心配しています。私は小さな字引を買った。フランス語を習いたい。リンゴの色は赤い。了

泉式の解説書は1940年以来、数回刊行されております。本書は泉会全音速記塾の教科書として、泉式の要点を記述したものであります。

著者紹介

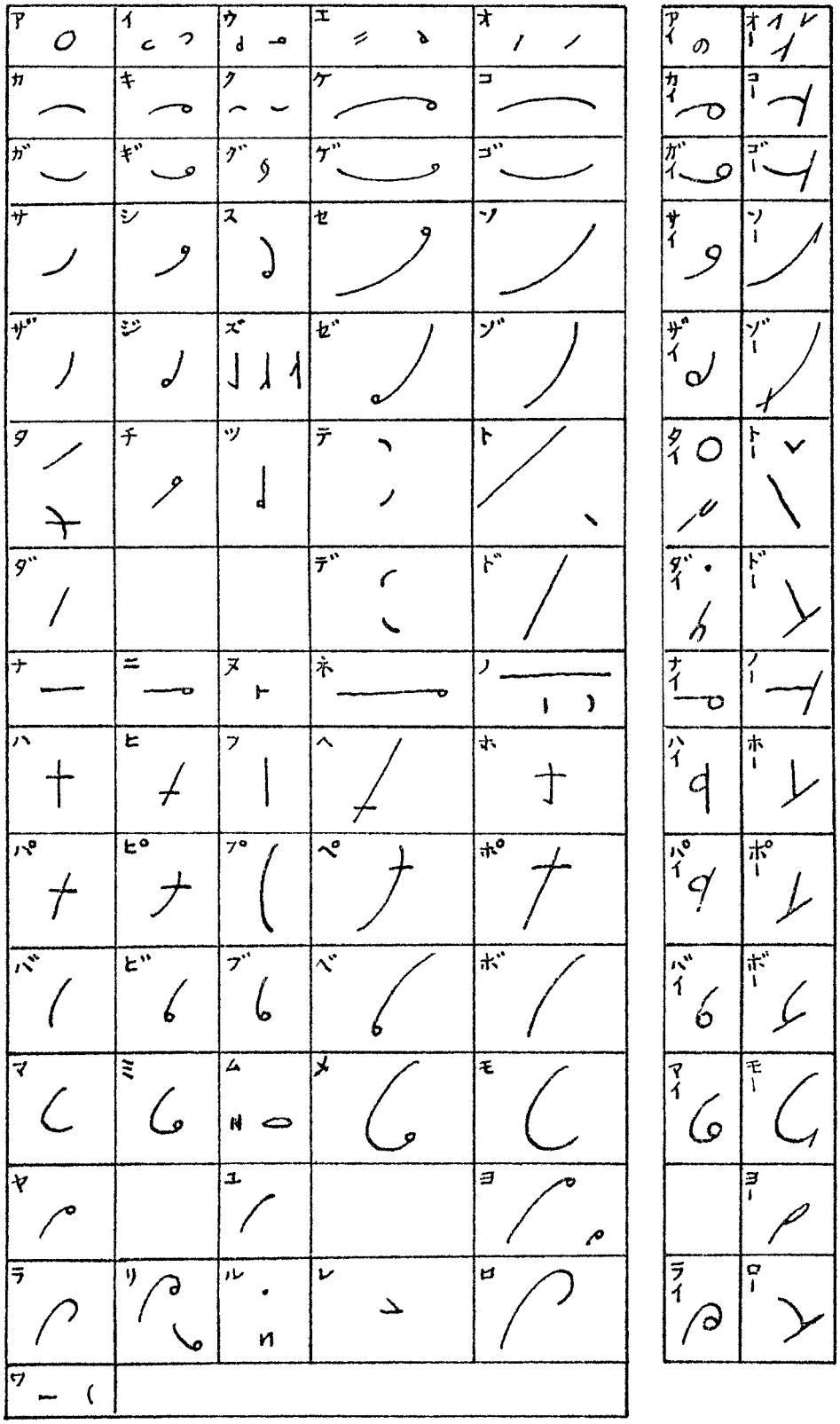
1897 東京で生れた。
1917 東京の京華中学校卒業
1922 東京大学文学部教育学科選科修了。
　　社会教育・図書館学を専攻。
1932〜1949 県立長野図書館長。
1940 泉式全音速記を発表。
1949 泉会(泉式速記研究会)を創る。
　青年団・図書館・速記に関する著書多し。

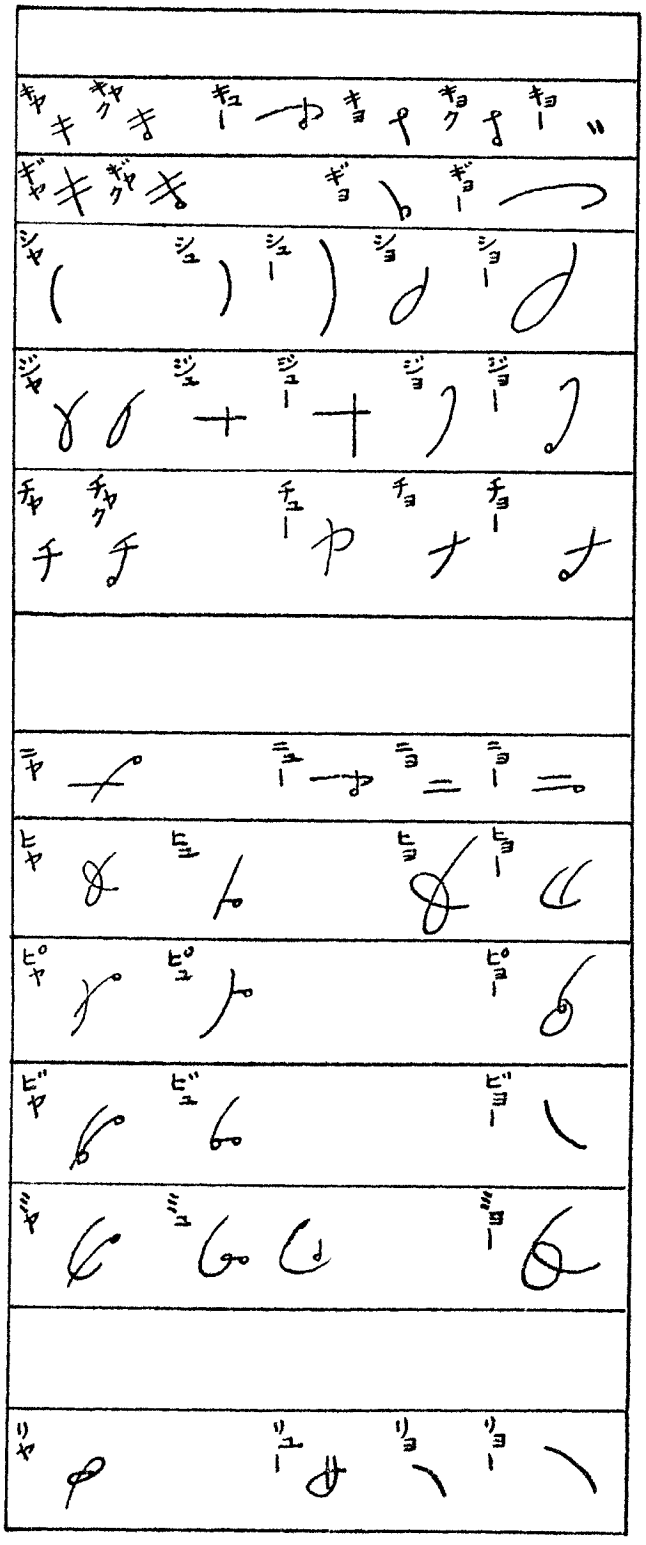
泉式 全音速記

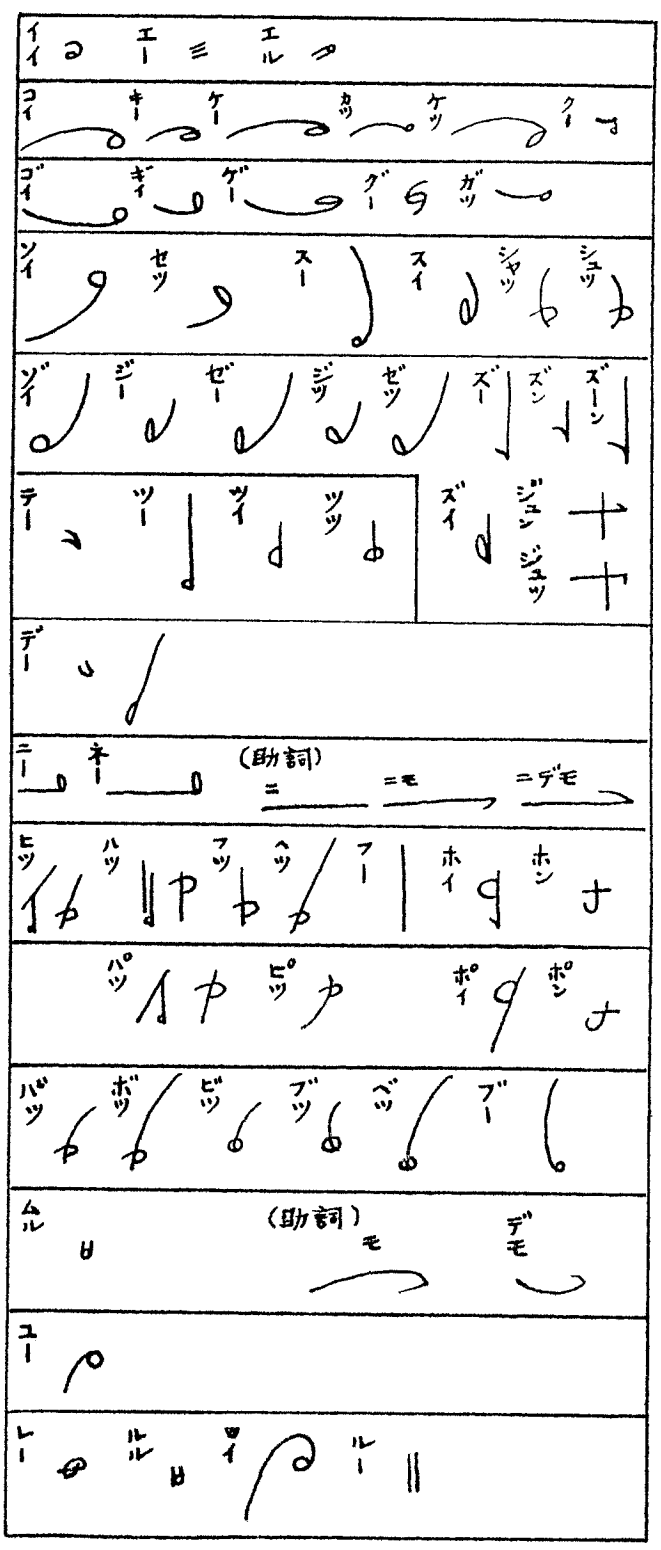
1969.10.28 発行
著者 乙部泉三郎
おとべ せんざぶろう

発行所 泉 会
長野市北石堂町269
振替 長野17715

全音速記　基本文字一覧表




キャ キャク キュー キョ キョク キョー
ギャ ギャク ギョ ギョー
シャ シュ シュー ショ ショー
ジャ ジュ ジュー ジョ ジョー
チャ チャク チュー チョ チョー
ニャ ニュー ニョ ニョー
ヒャ ヒュ ヒョ ヒョー
ピャ ピュ ピョー
ビャ ビュ ビョー
ミャ ミュ ミョー
リャ リュー リョ リョー


イ エー エル
コイ キー ケー カッ ケッ クー
ゴイ ギー ゲー グー ガッ
ソイ セッ スー スイ シャッ シュッ
ゾイ ジー ゼー ジッ ゼッ ズー ズン ズーン
テー ツー ツイ ツッ
ズイ ジュン ジュッ
デー
ニー ネー
(助詞)
ニ ニモ ニデモ
ヒッ ハッ フッ ヘッ フー ホイ ホン
パッ ピッ ポイ ポン
バッ ボッ ビッ ブッ ベッ ブー
ムル
(助詞)
モ デモ
ユー
レー ルル ルイ ルー